

備える 3.11から

第197回 特別編 むすび塾@311メディアネット



教訓も知恵も 地域超え共有

中日新聞や河北新報など全国の地方紙、放送局でつくる「311メディアネット」は2月11日、全国3カ所をオンラインで結び防災ワークショップ「むすび塾」を開催した。宮城県東松島市から大学生が中継で東日本大震災の語り部を務めたほか、各地で災害伝承や防災に取り組む10～30代の若者が災害の教訓を共有した。

若者がワークショップ

中高生の意識高めたい 名古屋大2年 坂上野々香さん

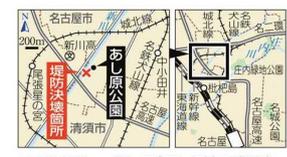
「一車輪の轡を意味するサークルの名前には、過去の人が残したことから同じような被害を受けないようにすることが出来た。今後起きるであろう巨大大地震に備え、災害を悲しむ人を一人でも減らしたい。」



避難どう促せば? ■メタバース 訓練に活用を

「防災授業で小さな子どもがいる家庭、新聞紙の活用など」と話したのは、開成大の防災研究センターの野々香さん。体感型で保護者も参加できる「メタバース」を使った避難訓練の活用を促している。

311メディアネット 河川新報社が展開する防災の巡回ワークショップ「むすび塾」を共催した全国の地方紙、放送局が参加するネットワーク。防災機運を盛り上げるため、東日本大震災の発生日前後に共通タイトルの



あし原公園 園内の東海豪雨雨水害之碑は、地元住民が主体となって、豪雨翌年の2001年に建立。御影石の石版には、豪雨や堤防決壊の経緯や様子などが記されている。名鉄大山線・中井田駅から徒歩18分。



CBCテレビによる動画はこちら



東海豪雨 2000年9月11～12日に東海地方を襲った豪雨。名古屋では観測史上記録の1時間97.7mmの雨を記録し、総雨量は年間雨量の1.1に当たる567.8mmに達した。水があふれた山間部では土砂災害も起きた。

都市水害 あふれた災害ごみ

東海豪雨は、名古屋市内の3割が浸水する。一部では、浸水した家屋が多量の水が溢れ、家具や家電が流れてきた。浸水した家屋は、浸水した家屋が多量の水が溢れ、家具や家電が流れてきた。



東海豪雨で決壊した新川堤防で、災害ごみ問題の課題を話す名古屋大の平山修久准教授。名古屋市内で水に漬かり、ごみとなった家財道具などで埋まった公園＝2000年9月14日、愛知県西枇杷島町（現清須市）で



百台分の量で、一年間の廃棄物処理量の五倍に及んだ。戸羽部長「そりゃあもう、山がはいって来た」と振り返った。